

Fastly + 株式会社スペースマーケット

テレビCMの全国放映にも耐える インフラを実質3分の1の工数で実装 キャッシュによりレイテンシーを 300ミリ秒から100ミリ秒に改善

「スペースシェアをあたりまえに」というミッションを掲げ、スペースシェアの文化創造、拡大に取り組む株式会社スペースマーケット(以下、スペースマーケット)。同社は、2018年末のテレビCMの全国放送に向け、トラフィックの急増に対応できるインフラ整備が急務となっていた。そこで、FastlyのCDN、イメージオプティマイザー、およびTLSを採用。導入後、年ごとに1.2~1.5倍で増えたトラフィックに対し、サーバーを数台増やしただけで対応できるインフラを実現した。

テクノロジーの活用で、 「あたりまえをアップデートし続ける」

「スペースシェアをあたりまえに」というミッションを掲げ、「スペースマーケット」、および「スペースマーケットWORK」を展開するスペースマーケット。スペースを貸し借りできるプラットフォームであるスペースマーケットは、住宅、古民家、会議室、撮影スタジオ、映画館、廃校など、使われていない遊休スペースを、インターネットを通じ、1時間単位で貸し借りすることが可能。全国1万9,000件以上のスペースが掲載されている。

一方、2020年8月にローンチされたスペースマーケットWORKは、働くシーンに特化したスペースをオンラインで貸し借りできるプラットフォーム。コロナ禍で働き方が変化の中で、多様な働き方の実現を支援する。同社のサービスを利用することで、貸し手は遊休不動産の収益化が可能になり、借り手はこれまでできなかった体験が可能になるなど、新たな価値創出につながっている。

またテックミッション「あたりまえをアップデートし続ける」を掲げ、テクノロジーの活用により、「あたりまえ」を作り出すことも取り組みの1つ。執行役員CTOである齋藤哲氏は、「常に利用者の体験を豊かにする価値の提供を考えており、テクノロジーを活用することでサービスを進化させていくことを目指しています。スペースシェアがあたりまえの選択肢に入る世界を実現するために、イノベーションを積み重ねていきたいと考えています」と話す。

スペースマーケットでは、2019年12月の上場に向けて会社が急激に成長している時期である2018年、取り組みの1つとしてテレビCMの全国放映を計画していた。テレビCMが全国放映されることで、ウェブサイトのトラフィックが増大し、サーバーリソースの不足が予測されることから、インフラ整備が急務となっていた。また同時に、アプリケーション最適化などのパフォーマンスチューニングも必要だった。

また以前より、画像配信の仕組みにも体系的な課題があった。齋藤氏は、「画像のサイズの変更や形式の変換、配信は自社で開発した仕組みを使っていました。しかし、変換処理の品質が悪く、使っているとメモリーリークも発生するため、手作業での対応が必要で運用が煩雑になっていました。本当は自分たちで解決するのが一番ですが、ビジネス的な観点から時間をかけることができず早急な対応が必要でした」と話す。

この2つの課題を解決できる手段を検討した結果、Fastlyのコンテンツ配信ネットワーク (CDN)、イメージオプティマイザー、およびトランスポートレイヤーセキュリティ (TLS) を採用することを決定した。



社名:株式会社スペースマーケット

2014年1月8日に設立。「場所のチカラであなただけにエール」という企業理念に基づき、プラットフォームサービス「スペースマーケット」、および「スペースマーケット WORK」の運営と、イベントプロデュース、およびプロモーション支援などの法人向けソリューションを事業として展開。スペースを「所有ではなく利用」「占有ではなく共有」することで、さまざまな社会課題の解決に貢献するSDGsの取り組みも推進。スペースシェアをあたりまえの選択肢とすることで、多様なチャレンジを生み出し、世の中を面白くすることを目指している。

住所:〒150-0001

東京都渋谷区神宮前 6-25-14

JRE神宮前メディアスクエアビル 2F

URL: <https://spacemarket.co.jp/>

fastly



Network Services

CDNとイメージオプティマイザーの一元管理を評価して採用を決定

Fastlyの導入は2017年末より検討を開始し、2018年初めに採用を決定。そして、2018年中旬には導入が完了している。Fastlyの採用を決めた理由を齋藤氏は、「CDNとイメージオプティマイザーの機能を一元管理できることが最大の理由です。今後、包括的なウェブサイトのパフォーマンス向上を考えていますが、FastlyであればAPIを利用して、キャッシュの整理や削除などもできるので有用だと考えました」と話す。

「Fastly導入前は、他社のCDNを使っていました。CDNとしては特に大きな問題はなかったのですが、インスタントページやイメージオプティマイザーなどの機能が必要だったので刷新を決めました。特にインスタントページの機能は、他社にはないFastlyの強みだと思います。これにより動的なコンテンツのキャッシュ化ができることを評価しています。Fastlyだけで、やりたいことをすべて実現できます」（齋藤氏）。

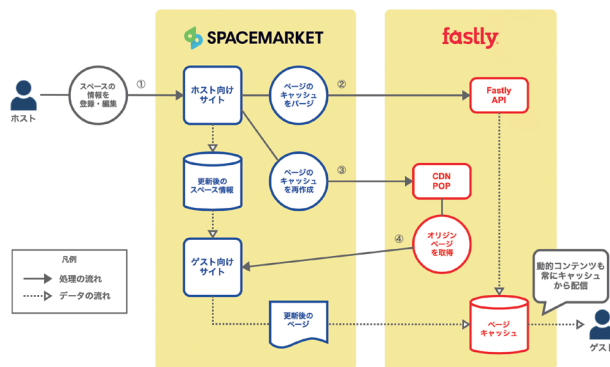
スペースマーケットでは、ウェブサイトの利用者がインターネットを経由し、APIを介してバックエンドのウェブサービスを利用する仕組みが構築されている。このとき、バックエンドで生成されたコンテンツがFastlyのCDNでキャッシュされる。画像に関しては、スペースのオーナーが登録した画像はオリジナルのままクラウドストレージに保存し、ユーザーが参照する画像はイメージオプティマイザーでサイズやフォーマットを最適化して配信されている。

Fastlyの導入について齋藤氏は、「フロントエンド担当とバックエンド担当の2名で、3カ月弱で1次開発を完了できました。期間としては長くなっていますが、ほかの施策も並行して実施しており、実質3分の1程度の工数で実装できました。Fastlyの担当者のサポートにより、仕様を理解してからはダッシュボードを使って簡潔に実装を行うことができました」と話す。

Fastlyを導入した最大の効果は、テレビCMの全国放映においても、サーバーの追加などのインフラ整備をほとんど行うことなく、トラフィックの増加に対応することができたことである。またキャッシュにより、レイテンシーを300ミリ秒から100ミリ秒に改善することもできた。その後も利用者の増加に伴い、トラフィックは増加しているが、バックエンドのサーバーリソースを抑えつつパフォーマンスを担保することができている。

齋藤氏は、「Fastlyの導入から数年が経過していますが、サーバーを数台増やただけでトラフィックの増加に対応できています。現状では、1.2~1.5倍にトラフィックが増えているので、それに合わせたサーバーの増強を行っていますが、かなり投資を抑えられています。トータルとして、コスト削減にもつながっています。またTLSにより、利用者に安心・安全なサービスを提供することもできました」と話している。

オンデマンド・キャッシングによるパフォーマンス向上



SEO対策の一環として、キャッシュの包括的な機能強化を検討

今後、スペースマーケットでは、SEO対策の一環として、キャッシュの包括的な機能強化を検討している。そのために、ページ全体にインスタントページの機能を導入し、キャッシュを常に最新の状態で保持できる仕組みを実現する計画である。齋藤氏は、次のように語る。「2022年中には、重要なページの改修は済ませたいと思っています。現在、画像のヒット率はほぼ100%ですが、コンテンツに関しては、30~60%を推移しており、まだ改善の余地があります。最終的には100%を目指したいと思っています」

また、これまでに蓄積したデータを利活用することで、新たな価値を創出する取り組みも推進する計画という。そのために、まずはデータの構造化を進めている。齋藤氏は、「スペースの掲載データや利用者の情報など、いろいろなデータがありますが、非定型のデータが膨大に蓄積されています。このデータの中に、利用者のニーズが隠れており、それを構造化することで、データ分析に使えるようになります」と話す。



執行役員 CTO 齋藤 哲氏

データを整備することで、機械学習などを利用した分析が可能になり、より精緻なニーズを捉えるリスタリングや、さらに踏み込んで利用者が探さなくてもスペースマーケットに訪問すればやりたいことが実現できるスペースが簡単に見つかる世界を直近1~2年で実現する。そのためにデータ分析基盤の構築はもちろん、フロントエンドのコンテンツが膨大に増えることを想定し、インスタントページなどを活用したオンデマンドなキャッシュシステムの構築などにも取り組んでいく。

今後のFastlyへの期待について齋藤氏は、「Webサービスではパフォーマンスがかなり重要で、それによりコンバージョン率も変化します。それを担保するために、エッジ側で処理できれば負荷分散にもつながるので重要です。こうした仕組みを、既存のアーキテクチャを変えることなく実現できるCompute@Edgeも是非試してみたいと思っています。そのような先進的な取り組みをしているFastlyの製品と包括的なサポートに今後も期待しています」と話している。

お問い合わせ



✉ japan@fastly.com

🐦 @FastlyJapan

🌐 www.fastly.com/jp

📘 @FastlyEdgeCloudJapan

fastly



© 2023 Fastly, Inc. All Rights Reserved